

中河与一作品年譜

大正四年～昭和三年

石川偉子

中河与一（一八九七～一九九四）は今日、川端康成や横光利一らと「新感覺派」として出発した作家として知られている。中河に関する研究は、「天の夕顔」（『日本評論』昭和十三年一月）と、昭和一〇年から一一年にかけて起こった「偶然文学論」争に関する研究に代表され、これらは昭和四一年、『中河與一全集』（角川書店）の刊行により本格的に開始されたといえよう。それ以前は、著作の通覧は困難であり、文学全集等に著作が収録されるも、十分とは言えない状態であった。全集刊行によって、研究上の不便は解消されたが、それに先立ち、問題とされる点がある。それは、中河に関する伝記的な資料である生活年譜と共に、研究の基盤となる作品年譜が未完成であるという点である。中河の年譜は様々あり、主なものを

挙げると、

- ① 『新興芸術派文学集』（改造社・昭和六年）収録。
- ② 『昭和文学全集』第四九卷（角川書店・昭和二九年）収録。
- ③ 『学研新書日本青春文学名作選 第六卷』（学習研究社出版局・昭和三八年）収録。
- ④ 『中河與一全集』第二二卷（角川書店・昭和四二年）収録。
- ⑤ 笹淵友一編『中河與一研究』（右文書院・昭和四五年）収録。
- ⑥ 『現代日本文学大系』六二（筑摩書房・昭和四八年）収録。
- ⑦ 笹淵友一編『中河与一研究』（南窓社・五四年）収録。
- ⑧ 中河与一『天の夕顔前後』（古川書房・昭和六一年）収録。
- ⑨ 佐藤悦朗編『中河与一研究』創刊号（蘭石山房・昭和六二年）

収録。

- ⑩ 中河与一『超一流の人々』（日本総合出版・平成三年）収録。
⑪『ランマンチャ』五二号、中河与一先生追悼号（ランマンチャ社・平成七年）収録。

などがある。②は、内容や文章の書き方から、中河本人の筆によるものと考えられる。詳細な年譜の最初は④であり、以降、④に加えられるべく形で年譜が作成される。最も新しいものは、中河の没後に刊行された①であるが、内容は簡潔にまとめられており、新しく見るべき点は少ない。よって、④から①の年譜を見ることによって、七十余年にも及ぶ中河の作家人生を把握することが出来る。これらの年譜は、生活年譜と共に、代表的な著作を記しており、独立した作品年譜としては、⑦が唯一である。しかし、題名・掲載誌紙名・初出年月日等に誤りが見られ、また、掲載されていない文献が多数あるなどの問題点がある。

ここに、⑦の年譜を基礎として、誤りを修正し、新資料を加えることによって新たな作品年譜を作成し、未だ評価の定まらない中河の全体像を把握する一材料とした。

凡例

- 一、本年譜は、小説・評論・随筆の他、アンケート・座談会等を発
表年代順に配列した。
一、記載の順序は、作品名／発表誌紙名／掲載巻号数・掲載月日／

掲載頁／作品種別とした。

一、誌紙における常設欄、特集、アンケート等への寄稿で無題のもの、特集、アンケート名を著作題名とし、表題のあるものに関しては、表題の前に特集、アンケート名を記した。

一、著作の掲載頁数について、アンケート等は、中河の記事が掲載されている頁のみを記した。

一、著作の内容について、その種別を次のように分けた。

小：小説／戯：戯曲／歌：短歌／評：評論／随：随筆／ア：アンケート回答／座：座談会

一、漢字は、原則として現在通行の字体に改めた。ただし、人名・誌紙名について旧字体で残したものがある。また、仮名遣い・送り仮名の表記は、初出誌紙掲載のままとした。

一、作品に小題があるもの等、注記のあるものについては注を付し、後に記した。

一、『中河與一全集』（角川書店・昭和四一〜四二年）に収録されている著作には、表題の後に、収録巻数を表す①〜⑪の数字を記した。

一、本年譜の作成については、笹淵友一編『中河与一研究』（南窓社・昭和五四年）収録の年譜を参考とし、これに新資料を加える形で作成した。新資料については、太字ゴシック体で表し区別した。

大正四年（一九一五）・中河一八歳

『香川新報』新年懸賞小説^①

大正七年（一九一八）・中河二二歳

一月 「京の街」^②

二月 淡雪集「夜天の星」^③

三月 弥生集「夜の路」^④

四月 春雷集「日比の戸」^⑤

『ザンボア』四卷一号 二七―二八

『ザンボア』四卷二号 一九

『ザンボア』四卷三号 二三

『ザンボア』四卷四号 一四

歌 歌 歌 歌

大正一〇年（一九二二）・中河二四歳

二月 「あはれなる恋人」^⑥

六月 「悩ましき妄想」^{⑦⑧}

『女性日本人』二卷二号 一五八―一六三

『新公論』三六年六号 六三―九一

小 小

大正一二年（一九二三）・中河二五歳

七月 「踊り」^①

『早稲田文学』二〇〇号 一〇七―一二八

小

大正二二年（一九二三）・中河二六歳

三月 「海の歌」

「或る感覚」

「歌を作る喜び」

合評^⑨

四月 「歌を作る喜び（其二）」

『香蘭』創刊号 一―一三

『文藝春秋』一年三号 三五

『香蘭』創刊号 二九―三一

『香蘭』創刊号 四六―四七

『香蘭』一卷二号 一七―一九

歌 評 隨 雜 隨

大正十三年（一九二四）・中河一七歳

「西鶴に関する一考察」

五月

「或る新婚者」①

「濃藍の空」を読んで」

「西鶴に関する一考察（承前）」

七月

「祖母」②

前月短歌合評⑩

八月

「祝ひ」①

「大災害の初めに見たもの」

十一月

「或る心中の話」②①

「信頼被信頼」③

「香蘭」一巻二号 四九—五〇

「文藝春秋」一年五号 七四—七七

「文章俱樂部」八巻五号 七八—七九

「香蘭」一巻三号 四八—四九

「文藝春秋」一年七号 二〇—二二

「香蘭」一巻五号 四二—四三

第六次「新思潮」二—二四

「文章俱樂部」八巻一〇号 五四—五五

「文藝春秋」一年一—号 九七—九九

「文藝春秋」一年一—号 六八—六九

一月

「山海集」

「春光」④

大正十二年の自作を回顧して——三十七作家の感想——私の精神だけは」

「文藝春秋」二年一号 二四

「香蘭」二巻一号 一〇—一一

「新潮」四〇巻一号 別一二二

「文章俱樂部」九巻一号 九五

「香蘭」二巻一号 五〇

「文藝春秋」二年二号 二八—二九

「新潮」四〇巻三号 別五九—七六

「文章俱樂部」九巻三号 一〇—一三

「読売新聞」【二一日】五面

二月

「短篇小説論」

三月

「木枯の日」①

四月

「髪」

新たに注目されてゐる作家「自己紹介」

評

小

評

評

小

雑

小

隨

隨

小

歌

歌

ア

ア

雑

評

小

小

雑

六月

「科学と神経」

「ビスケツトと裁判」

「じゅんでんごふ」

「父親の話」

日光室

「展覧会小景」

同人記雑⑫

「十行小説」

「次の時代」⑬

紫外線「批評に就いて」

日光室

「気嫌のいい手紙」⑭

われわれは既成文壇を如何に見るか「自他戒文」

「作家は一面ではない」

「短篇五つ」⑮

日光室

編集後記

「湖水の近くで 上・下」

九月

「清めの布と希望」①

文壇交友日記(下)「ふるさと」

一〇月

「義足」

「新らしい病氣と文学」

『読売新聞』【三〇日】 七面

『文藝春秋』二年六号 九四―一九八

『新潮』四〇巻六号 別五三―一五八

『日光』一卷三号 一―八―一二〇

『日光』一卷三号 一三五

『文章倶楽部』九巻六号 四五

『文藝春秋』二年六号 三六一―三八

『文藝春秋』二年七号 五五

『日光』一卷四号 八五―八六

『日光』一卷四号 九八

『日光』一卷四号 一三五―一三六

『世界文学』一卷四号 一一七

『新潮』四一巻一号 二六

『時事新報』【二〇日】 三面

『日光』一卷五号 九〇―一〇四

『日光』一卷五号 一三二

『文藝春秋』二巻八号 九六

『東京朝日新聞』【三・二四日】 五面

『新小説』二九年九号 四二―五二

『隨筆』二巻八号 五七―五九

『文藝春秋』二年一〇号 八二―八五

『文藝時代』創刊号 一二―一三

評

小

小

小

隨

歌

雜

小

小

隨

隨

隨

ア

評

小

隨

雜

小

小

隨

小

評

来年の自分はどうかなるか「なるだらう」

『萬朝報』【一六日】 六面

ア

大正二四年（一九二五）・中河二八歳

一月

「彼の憂鬱」①

「首をちぎつた話」

「蛾の話」

「これからのために」②

「幕のあく前」

日光室

私の事（後継文壇緒家）の一人一語録——二十七家——「人間の中の美」

私の得た最初の原稿料「愛人に送る」

二月

「親切」

「新しい世界」

文壇波動詞

「死と凶器に関する幻想」

三月

「赤き城門」③

新感覺派の短編小説五種「午前の殺人」

「勇将ローラン（泰西英雄美談）」

「月光その他」

文壇展望台「ことのわからぬ批評家」

文壇波動詞

『新潮』四二卷一号 三五—三九

『週刊朝日』七卷一号【一日号】 二二—二三

『婦女界』三一卷一号 一二四—一二八

『文藝時代』二卷一号 四一—四二

『日光』二卷一号 八六—八八

『日光』二卷一号 一四五—一四六

「人間の中の美」

『文章俱樂部』一〇卷一号 五六

『文章俱樂部』一〇卷一号 九九

『文藝時代』二卷二号 一六一—一七

『文藝時代』二卷二号 八〇—八一

『文藝時代』二卷二号 五二—五三

『読売新聞』【二日】 四面

『文藝時代』二卷三号 七一—七五

『女性』七卷三号 九三—九九

『少年俱樂部』一二卷三号 二二—三二

『文芸の先駆』二卷三号 一—三

『新潮』四二卷三号 一—三

『文藝時代』二卷三号 二六—二七

小

小

評

隨

隨

隨

隨

ア

小

隨

隨

評

小

小

小

歌

雜

雜

雜

同人寄せ書

「人気」²²⁾

四月

「氷る舞踏場」①

「海浜挿話」③

前月歌壇合評²³⁾

五月

「棺をかつぐ音」

「死と凶器に関する幻想」

「身辺記録(日記)」

日光室

「空想を托する風景——伊豆浴泉紀行——」

六月

初夏途上の女「感傷戯画」

「答へておく」

青葉の窓「目についた事」

文壇波動調

七月

「足——名、『恋する者の作る幻影』——」①

「『川のほとり』を讀みて」

「神の僕」

「新しき時代の為に」

編集後記

八月

「愉快なる発見——或る偏執病者の手紙——」

「或る時代の心持」²⁴⁾

新時代「思ひ出の爲めに(最後のランデヴー)」

『文藝時代』二卷三号 六四—六八

『戦車』創刊号 三一—二

『新潮』四二卷四号 二〇三—二一九

『サンデー毎日』四卷一五号【一日号】 三一—三二

『香蘭』三卷四号 三五—三八

『文藝春秋』三年五号 三一—三八

『香蘭』三卷五号 一〇—一二

『文章俱樂部』一〇卷五号 五〇—五三

『日光』二卷四号 九七

『週刊朝日』七卷二一号【一〇日号】 二八

『女性』七卷六号 四九—五三

『文藝時代』二卷六号 一〇—三

『香蘭』三卷六号 三九

『文藝時代』二卷六号 七四—七五

『マヴォ』六号 六

『日光』二卷六号 七〇—七八

『文藝春秋』三年七号 七〇—七二

『文藝時代』二卷七号 二二

『文藝時代』二卷七号 一〇—七

『文藝時代』二卷八号 一〇五—一二二

第二次『早稲田文学』二三四号 六〇—六九

『女性』八卷二号 七七—八二

雜

小

小

小

雜

戲

評

隨

隨

隨

小

隨

雜

雜

小

評

隨

隨

雜

小

小

小

文壇波動調

七月諸雜誌創作評 同人寄せ書

編集後記

一日一文「病的なるもの、示す積極」

「盛夏」景 一・二二

「金子君に」

「地獄」①

「雨夜の客」(創作童話)

「黒い影」②

「即興詩人としての岡本かの子女史」

日光室

処女作を発表する迄「狂氣した生活の中から」

前月歌壇合評③

波動調

「再び金子洋文君に」

「島の一夜」

「歌一首」

「病的なるもの、示す積極」

「世評に答へる」

文壇波動調

「日記」

「厄日」①

十一月

『文藝時代』二卷八号 一六―一八九

『文藝時代』二卷八号 一二二―一二三

『文藝時代』二卷八号 一二六

『大阪朝日新聞』【三日】一面

『報知新聞』【七・八日】七面

『読売新聞』【二八日】四面

『中央公論』四〇卷一〇号 創作一四四

『少年俱樂部』二卷九号 一九―二七

『文藝春秋』三年九号 一七―二三

『日光』二卷八号 七六―八〇

『日光』二卷八号 一〇二

『文章俱樂部』一〇卷九号 二二―二四

『香蘭』三卷九号 二八―三一

『文藝時代』二卷九号 七七

『読売新聞』【八日】四面

『週刊朝日』八卷一六号【四日号】一三

『文藝時代』二卷一〇号 九〇

『香蘭』三卷一〇号 一三一―一五

『文藝春秋』三年一〇号 五五―五七

『文藝時代』二卷一〇号 九四―九七

『サンデー毎日』四卷四四号【四日号】二三

『新小説』三〇年一十一号 六七―七八

雑

雑

評

小

隨

小

小

戲

評

隨

イ

雜

雜

隨

小

歌

評

評

雜

隨

小

大正二五年(一九二六)・中河二九歳

一月 「肉親の賦」②

「道化者の記」

現代名家短篇小説傑作集「思ひ出す風景」

文芸雑誌について「希望」

日光室

大正十五年の文壇及び劇壇に就て語る

文壇波動調

「希望」

二月 「心の影」

「乳——或る兵士の歌」

「杉山夫妻の間」

「聖フランシスの悪徳」①

文壇波動調

「明るきものに対する渴仰」

私が本年発表した創作に就いて——四十四作家の感想——「作品二十一篇」

『文藝時代』二卷二一号 六九—七一

『文藝時代』二卷二一号 七二—七三

『文藝時代』二卷二二号 四八—四九

『新潮』四三卷六号 八一—八二

『文藝時代』二卷二二号 四九

『文藝時代』二卷二二号 卷末

『香蘭』三卷二二号 一七一—二一

『文藝時報』三号【二〇日】 三面

『中央公論』四一巻二号 創作六九—一〇八

『太陽』三三巻一号 二八一—二八四

『婦人倶楽部』七巻一号 四二五—四三〇

『文章往来』一年一号 一七

『日光』三巻一号 一四〇

『新潮』二三年一号 四五

『文藝時代』三巻一号 一三六—一三九

『文藝時報』五号【二〇日】 一面

『文藝時代』三巻二号 五六—六一

『キング』二巻二号 三〇九—三一

『現代』七巻二号 二二二—二三八

小

雜

隨

ア

雜

雜

雜

評

小

小

小

隨

隨

隨

ア

雜

小

小

小

小

小

「世界地図のある室で」

「風は海の王である」

私の一日 — 四十八家 —

「新鮮な訪問者 — 短編小説 —」

「徒然心経」

合評会第一回²⁸

「恐ろしき私」

「つつましき祝宴」

「孤客」

「生きてゐる」

「見知らぬ海景 或るラジオ・オペレーターの話」

文壇交友録 (一) 「友を語る」

合評会第二回²⁹

「幽居独語 上・下」³¹

「X化された章」³²

「デカダンスと云はれる二人の詩人に就て」

「舊作を顧みて新作を想ふ」

合評会第三回³³

続愛児命名録

「自我像」

「或る女の話」

少年思出物語「梅の実の熟す頃」³⁴

『文藝時代』三卷二号 九一—九五

『日光』三卷二号 八四—八五

『文章倶楽部』一一卷二号 四四

『アルス・グラフ』二卷三号 一一—一三

『文章往来』一年三号 五

『文藝時代』三卷三号 八一—一〇〇

『新潮』二三年四号 一九五—二〇六

『文藝春秋』四卷四号 一三一—二〇〇

『文藝時代』三卷四号 三七—四〇

『文章往来』一年四号 七七—七八

『女性』九卷四号 二二—三三

『文章倶楽部』一一卷四号 四一—四二

『文藝時代』三卷四号 六七—八九

『読売新聞』【二一・二二日】 四面

『辻馬車』二卷五号 二二—三一

『文藝道』一卷三号 二七—二八

『文章往来』一年五号 二〇—二二

『文藝時代』三卷五号 一〇—一一

『婦人公論』一年五号 一七〇

『虚無思想』一卷三号 後四三—四八

『文藝行動』一卷六号 八七—八八

『少年世界』三二卷六号 二四—三一

隨

隨

ア

小

歌

座

小

小

小

小

小

隨

座

隨

小

評

隨

座

ア

小

小

小

初夏の光(名歌一什)

『キング』二卷六号 七五

新進作家の人と作との印象(其の三) 横光利一氏の印象「彼の一面」

『新潮』二三年六号 八四―八五

合評会第四回^⑧

『文藝時代』三卷六号 一三一―一五一

「N先生の話」

『週刊朝日』一〇卷三号【二一日号】八

「帰来」

『現代』七卷七号 一三七―一四〇

特集小説「造華術者」

『少女画報』一五卷七号 五四―六三

「眼鏡をかけてくれ」

『文藝時代』三卷七号 一〇二―一〇四

「生けるパスカル」と精神分析学」

『隨筆』一卷二号 四〇―四二

文壇波動調

『文藝時代』三卷七号 八六―八七

八月

少年小説「母への折り」

『少年俱樂部』一三卷八号 一一二―一一九

「祝ひ」

『文藝道』一卷六号 二四―二六

私の好きな山と水^⑨

『婦人俱樂部』七卷八号 一九

「Cordobaに就いて ―真夏真昼に描く科学的なブリキ製のオモチャのやうな幻想と感覚―」

「鎖夏法」

『文藝時代』三卷八号 一二七

「空想の花」

『戦車』一卷二号 四二―四三

九月

「庭のぐるり」^①

『文藝時代』三卷九号 一〇一

感想・評論「海に沈む都から」

『新潮』二三年九号 五九

「上海見聞」

『文藝時報』一九号【一〇日】二面

一〇月

「上海瞥見」^⑩

『文藝春秋』四年一〇号 九九―一〇六

「上海漫步」

『週刊朝日』一〇卷一六号【三日号】一八

シナリオは文芸作品たり得るや

『文藝時代』三卷一〇号 一〇六

歌 隨 座 小 小 小 隨 隨 雜 小 小 小 隨 隨 隨 隨 小 隨 雜

はがき評論 五大雑誌とその編集者

文壇波動調

「旅情 上・中・下」

一月 「船窓小戯 ―クラブの1が欲しい」

私の此頃の生活

「或る夜」

「支那の映画」⑪

私が本年発表した創作に就いて ―四十七作家の感想―「作品二十一篇」

文壇新人年譜 (一) 中河與一 今東光

「新潮」二三年一二号 二四

「文章俱樂部」二一年一十一号 一三六―一三七

昭和二年(一九二七)・中河三〇歳

一月 「花を持てる肖像」

一、私の余技、二、娯樂に就ての趣味 五十家

年頭感

二月 「天の門」

「恋がたき」

「海に開く窓」

「信号する日傘」

「処女作なんて」

取消し

三月 「秋風の宿 この抒情詩風な記録を私に送って来たのは誰か。」①

「不同調」三年四号 五三

『文藝時代』三卷一〇号 九九

『読売新聞』【一四・一五・一七日】 四面

『近代風景』一卷一号 九五―九九

『文章俱樂部』一一卷一十一号 一二二

『週刊朝日』一〇卷二五号【五日号】 一六

『映画時代』一卷六号 三四―三五

『新潮』二三年一二号 二四

『文章俱樂部』二一年一十一号 一三六―一三七

『若草』三卷一号 六一―〇

『文章俱樂部』一二卷一号 一四一

『文藝公論』一卷一号 一二二

『中央公論』四二卷二号 創作八二―一一五

『文藝春秋』五年二号 三〇―三二

『文藝時代』四卷二号 五五―五八

『苦楽』六卷二号 八六―八九

『文藝時代』四卷二号 一七三

『文藝時報』二六号【一〇日】 五面

『若草』三卷一号 六一―〇

『文章俱樂部』一二卷一号 一四一

『文藝公論』一卷一号 一二二

『中央公論』四二卷二号 創作八二―一一五

ア

雑

随

小

ア

随

随

ア

雑

ア

雑

小

ア

ア

小

小

小

小

小

随

雑

- 四月
- 「梅雨晴れ」
「妻の生涯」
海外名作の印象 文壇二十家「ボオと短篇小説」
「性的圧迫の世界」⑪
「恋愛小説雑考 及び恐怖の文学其の他」⑫
「孫逸仙の友」①
「時代読本」⑩⑪
私の好きな短歌「相聞歌を主として」
「家の設計その他 上」②
「家の設計その他 中」③
「家の設計その他 下」④
創作一人一評（四月）「片岡鉄兵作『色情文化』（改造）」
「芥川氏の首」
- 五月
- 川路柳虹の印象 — 詩壇諸家三十四氏の回答—
あめ（近作一付）
「フェミニズム」⑪
「船の中で」
「船窓日記」
若き女性にやめて貰ひたいこと「百人中七人の持つ欠点」
「夜の幻想曲」⑫
「不思議な花」
- 六月
- 「新潮」二四年三号 別一—二三
「文章俱樂部」一二卷三号 七二—七八
「婦人俱樂部」八卷三号 一四八—一五八
「文章俱樂部」一二卷三号 一七一
「手帖」一卷一号 二五
「文藝時報」二九号【五日】 三面
「文藝時代」四卷四号 七〇—七七
「手帖」一卷二号 四
「若草」三卷四号 一二三—一二四
「読売新聞」【二七日】 四面
「読売新聞」【二八日】 四面
「読売新聞」【二九日】 四面
「文藝時代」四卷五号 七一
「手帖」一卷三号 二三
「炬火」二年五月号 三〇
「キング」三卷六号 一五五
「手帖」一卷四号 一五
「隨筆」二卷六号 五八—五九
「文藝道」二卷六号 二—四
「婦人俱樂部」八卷六号 二—八
「若草」三卷七号 八一—八三
「婦人公論」一二卷七号 五七—七九
- 七月
- 小 小 ア 隨 隨 隨 歌 ア 隨 評 隨 隨 隨 雜 小 小 隨 隨 評 小 小 小

「死人の靴」

短篇小説「華やかな寝台」

「靴下だけの女」

私が本年発表した創作に就いて——五十二作家の感想——「エキソチックに溺れて」

「君には一生悪口を言つて貰ひたい」

「ウルサイ」

「南方憧憬 一」⁴²

「南方憧憬 二」⁴³

「南方憧憬 三」⁴⁴

「蘇州の旅」⁴⁵

『文藝春秋』五年一二号 一一—一七

『少女世界』二二卷二二号 七六—八九

『週刊朝日』一二卷二六号【一八日号】 一四

『新潮』二四年一二号 一九

『文藝公論』一卷二二号 四四—四五

『読売新聞』【五日】 四面

『時事新報』【六日】 八面

『時事新報』【七日】 一二面

『時事新報』【八日】 八面

『東京日日新聞』【一九日】 七面

小

小

小

ア

随

随

随

随

随

随

昭和三年（一九二八）・中河三二歳

一月 「盛装せるミス・ナンセル」

近作一什

「白樺を焚いて」

歌人の超然的態度の可否

文学と生活・及びその将来「抱擁力の大きい小説」

本年（昭和三年）の計画・希望など 九十一家

二月 「昔の絵」

「真情」⁴⁶

『若草』四卷一号 二四—二七

『現代』九卷一号 七

『雄弁』一九卷一号 二九七—二九九

『香蘭』六卷一号 一七

『文藝公論』二卷一号 一〇五

『文章倶楽部』一三卷一号 九四

『新潮』二五年二号 別一五—四三

『サンデー毎日』七卷七号【五日号】 二九—三〇

歌

随

ア

ア

ア

小

小

三月

「七宝傘経」⁽⁴⁶⁾

「愛の技術家」

「苦力の賦」⁽¹¹⁾

「政治演説」

「寒い時でも」

五月

私の一日 六十四家「天井の春」

六月

恋愛行進曲「鞭を持った女」

「芸術による派」⁽⁴⁷⁾

私の出世作(一)「過去には何も無い」⁽¹¹⁾

七月

「女礼」⁽¹⁾

「歯痛荘寸記」

世界各国風呂物語「支那の風呂」⁽¹¹⁾

「広東入港 一」

「頭の中の雑草」⁽⁴⁸⁾

「頭の外の雑草 上」⁽⁴⁹⁾

「頭の外の雑草 下」⁽⁵⁰⁾

八月

「月虹」

「健康な足」⁽⁵¹⁾

九月

「萎れた花」

一〇月

「茅家記」

朝(近作一什)

「早速抗議」

『創作月刊』一巻二号 二一四

『文藝倶楽部』三四巻三号 一六四—一七〇

『文藝春秋』六年三号 一四—一五

『創作時代』二巻三号 六八—六九

『少年倶楽部』一五巻三号 七四—七五

『文章倶楽部』一三巻五号 七六

『婦人公論』一三巻六号 三一—三二

『創作月刊』一巻五号 七四—七六

『文章倶楽部』一三巻六号 七二—七三

『文藝春秋』六年七号 四一—五一

『文藝春秋』六年七号 一四—一六

『現代』九巻七号 一五四—一五六

『時事新報』【二二】【二四・二六日】 八面

『読売新聞』【一五日】 四面

『読売新聞』【二七日】 四面

『読売新聞』【二八日】 四面

『若草』四巻八号 二六—三〇

『アルト』四号 三五—三六

『婦人倶楽部』九巻九号 二五四—二六三

『創作月刊』一巻九号 二—九

『現代』九巻一〇号 七五

『不同調』七巻四号 二六—二七

小

小

随

随

随

ア

小

評

随

小

随

随

随

随

随

随

小

随

小

小

歌

随

「佐伯祐三を惜む」

一二月

「モデルの立場」

一人一語「形式第一主義」

「形式主義文学の一端 一」

「形式主義文学の一端 二」

「形式主義文学の一端 三」

一二月

「匿れる恋人」

私が本年発表した創作に就いて

——四十七作家の感想——何も出来なかつた

今年度・推奨・非難

「形式と内容とは対立しない」⑨

「日本の批評家」

「形式主義理論の方向」

『文藝春秋』六年一〇号 一四—一六

『文章俱樂部』一三卷一—号 三六—四五

『創作時代』二卷一—号 六五

『東京朝日新聞』【二二日】 五面

『東京朝日新聞』【二三日】 五面

『東京朝日新聞』【二四日】 七面

『現代』九卷一—号 二五〇—二五六

『新潮』二五年一二号 四四

『不同調』七卷六号 二九

『読売新聞』【二一日】 四面

『読売新聞』【二二日】 四面

『読売新聞』【二六日】 四面

随

小

評

評

評

評

小

ア

ア

評

随

評

註

(1) 新年懸賞小説に、中河哀秋のペンネームで応募し、一等となつて紙面に掲載されたとされているが、紙面上に該当する記事が確認できず、詳細は未詳である。

(2) (5) ペンネーム、朝江彩介。

(6) 目次の著者名が「中川與一」、誌面本文の題名は「あはれな恋人」となっている。

(7) のち「赤い薔薇」と改題。誌面本文の題名は「惱ましい妄想」となっている。

- (8) 石野正太郎、今井嘉雄、中河與一、村野次郎、仲、椰子夫の連名。
- (9) のち「新婚者」と改題。
- (10) 石野正太郎、中河與一、穂積茅秋、村野次郎の連名。
- (11) 雑誌の表紙、目次、奥付は「十月号」と印刷されているが、誌面の中表紙には「九月号」と印刷されており、雑誌の巻号不明。のち「海に開く窓」と改題。
- (12) 誌面本文の著者名が「中村與一」となっている。
- (13) 【小題】震災の歌、をり〜の歌。
- (14) 【小題】石浜金作、川端康成、今東光、斎藤龍太郎、酒井真人、佐々木味津三、鈴木彦次郎、横光利一の連名。
- (15) 【小題】男の独語、女の会話、女の独語、次の時代。
- (16) 【小題】母親、海、或る男の意見、昼すぎ、春。
- (17) 【小題】短篇小説、新しいもの、旅行、軽くみえる深さ、文芸時代。
- (18) 紙面の名前が「中川與一」となっている。
- (19) 【小題】錯覚、縛られた世界。
- (20) のち「金色の城門」と改題。
- (21) ポオ「Jonzing」の翻訳。【副題】あらゆる人々は開放（開放）もなく驚いて、そうつと爪先で歩いて見に行つた。ポール僧正の諷刺句。
- (22) 今井嘉雄、佐野翠坡、中河與一、村野次郎の連名。
- (23) 題名と共に、「薔子」といふ名前はその時代の私の心持を子供に象徴したものです。」と記されている。
- (24) のち「黒い幻」と改題。
- (25) 杉浦翠子、中河與一、穂積忠、村野次郎、矢代東村の連名。
- (26) 中河與一、橋本敏夫、村野次郎、矢代東村の連名。
- (27)

- (28) 【出席者】片岡鉄兵、加宮貴一、川端康成、酒井真人、佐々木味津三、菅忠雄、鈴木彦次郎、中河與一、南幸夫。
- (29) 【出席者】石浜金作、伊藤貴麿、加宮貴一、中河與一、南幸夫。ポオ「King's Paraph」の翻訳。
- (30) 【出席者】石浜金作、稲垣足穂、片岡鉄兵、加宮貴一、川端康成、菊池寛、岸田国士、酒井真人、佐佐木茂索、菅忠雄、鈴木彦次郎、中河與一、南幸夫。
- (31) 誌面本文の題名は「梅の実の記憶」となっている。
- (32) 【出席者】石浜金作、伊藤貴麿、稲垣足穂、片岡鉄兵、加宮貴一、川端康成、酒井真人、中河與一、広津和郎、三宅幾三郎。
- (33) 誌面本文のアンケート名は、私の好きな山の名所と水の名所となっている。
- (34) 【小題】真似、恐怖の文学、良薬。
- (35) 【小題】男性中心時代、女性中心時代。
- (36) 【小題】軍艦行進曲。
- (37) 【小題】科学的常識、よき生き方。
- (38) 【小題】文学の本質と陳独秀。
- (39) 【心の影】(初出・大正一五年二月『文芸時代』)の改作。
- (40) 【自由なる人、永遠に海を愛さんーポードレール。】とエビングラフが付されている。
- (41) 【小題】新しい様式、マルキシズム、旅行。
- (42) 【小題】若き者に求めよ、不眠不休、澤野忠庵、自然主義、南方憧憬。
- (43) 【小題】講演、室生犀星氏の歌、芥川氏の小説論。
- (44) 目次の著者名が「中川與一」となっている。
- (45) のち「赤と白」と改題。
- (46) 【小題】恋愛を重んじすぎる悲劇。
- (47)

- (48) 【小題】南方、生ける人形、虫の勝利、或る人間、アメリカニ
ズム、南方、第一劇場、ねらつてゐるもの、陶器の窯、金、成
城学園村。
- (49) 【小題】気風、奇異、下の場合、コロントアイ。
- (50) 【小題】教育、死の書、頭の外の雑草、メスマンド、名人、散
華抄。
- (51) 【小題】又、形式、或る日、タイチ、田端。

補

年譜作成の過程で、詳細の不明な著作があり、それを次に記す。
①掲載されたとする雑誌の現存が確認出来ず、未見のもの。

大正一一年一〇月 「リチャードソンに就いて」 『じぎやう』創刊号
大正一二年一月 「蝙蝠傘の日記」 『黒潮』
大正一三年九月 「運のいい旅人」 『少女星』
大正一三年七月 「気嫌の悪い感想」 『芸術解放』一卷七号
大正一三年九月 「庭を広げる」 『現代文藝』五号
大正一四年一月 「無名作家と狼」 『文藝の先駆』二巻一号
「書く事の喜びに生きたい」 『文藝の先駆』二
巻一号
昭和二年七月 「名大物語」 『愛児の友』

②掲載されたとする誌紙面を確認した所、掲載されていなかったもの。
大正一三年三月 「徒然心験」 『文藝の先駆』
大正一三年二月 「最近見聞集」 『萬朝報』
大正一四年一月 「最後の裝飾」 『婦人倶楽部』六巻一、二号
(いしかわ よりこ/博士後期課程)